

2009(平成 21)年 5 月 20 日

各位

エクソンモービル有限会社
東京都港区港南一丁目 8 番 15 号
問合せ先:
広報渉外部 田所
TEL:03-6713-4378

日本ブチル株式会社 川崎工場にてブチルゴムの生産能力を増強

エクソンモービル有限会社(社長:D.G.ワスコム)は、同社が50%の株式を保有する日本ブチル株式会社の川崎工場において、ブチルゴムの生産能力増強を決定しましたのでお知らせいたします。これにより、同社のブチルゴム年間生産能力は2010年の末をもって、18,000トン増の98,000トンとなります。

今回の増強では、近年進歩をみたエクソンモービル・ケミカルの新たな製造技術のいくつかが導入されます。当社が独自に開発した新技術の一つは、通常は-95℃で起きるブチルゴムの重合反応を-75℃で起こさせるものです。こうした新たな技術進歩により、省エネルギーおよび設備投資の効率化がもたらされます。

エクソンモービル・ケミカルでは、これら新しい製造技術進歩に加え、タイヤ空気圧の保持力を向上させると同時に、大幅な軽量化も実現できるタイヤ・インナーライナー向け新製品“Exxcore™DVA樹脂”についてお客様との取り組みを始めています。また、パイロットプラントにおいて、ナノコンポジット技術を用いた次世代ブチルゴムの製造にも昨今成功しました。エクソンモービル・グループの設備にこの最新の手法を用いることで、既存のタイヤ・インナーライナー用途に必要な原材料を削減でき、各プラントからの供給により製造できるタイヤ・インナーライナー用途製品の数量が事実上倍増します。

2010年には、市場化テストの開始を予定しており、これらの取り組みによりブチルゴム部門の高成長をサポートしていきます。

エクソンモービル・ケミカルは、高機能製品、エネルギー効率化、汚染防止および温室効果ガス排出削減といった付加価値をもたらす高品質の製品の開発と応用において業界をリードしています。また、ブチルゴム業界のニーズ拡張への対応にも継続的に取り組んでおり、今回の日本ブチル株式会社の増強は、増大するブチルゴム市場に対応するために当社が近年実施した増強のなかで最新のものです。

エクソンモービルは、2008年に、米テキサス州ベイタウン工場のハロゲン化ブチルゴムの生産能力を60%増強しています。また、2006年には、日本ブチル株式会社鹿島工場のハロゲン化ブチルゴムの生産能力を年間17,000トン増強しています。

日本ブチル株式会社について

日本ブチル株式会社はエクソンモービル有限会社とJSR株式会社の合弁会社でブチルゴムの製造会社です。日本ブチル株式会社は主にアジア地域のブチルゴム供給基地として発展してきました。エクソンモービル有限会社は日本ブチル株式会社の株式の50%を保有しています。詳細につきましては、こちらのサイトをご覧ください。 <http://www.j-butyl.jp/>

エクソンモービル有限会社 および エクソンモービル・ジャパングループについて

エクソンモービル・ジャパングループは、エクソンモービル有限会社を中心に、東燃ゼネラル石油株式会社、東燃化学を含む複数の子会社・関連会社で構成されています。エクソンモービル・ジャパングループは、日本を代表する石油製品、潤滑油、石油化学品の製造・販売業者であり、その創業は1893年にさかのぼります。エクソンモービル有限会社は、米エクソン モービル コーポレーションが100%の株式を間接的に保有する子会社です。東燃ゼネラル石油は、東京証券取引所第一部に株式を上場しており、エクソンモービル有限会社が50.02%の株式を保有する子会社です。詳細につきましては、こちらのサイトをご覧ください。 www.exxonmobil.jp/ ; www.tonengeneral.co.jp

エクソンモービル・ケミカルについて

「エクソンモービル ケミカル カンパニー」または「エクソンモービル・ケミカル」とは、世界中で化学品の製造および／または販売業を行うエクソン モービル コーポレーション、同社関連会社の全て、またはその一部を総称しており、世界中で製造、技術開発および販売を行っています。なお、エクソンモービル・ケミカルのブチルポリマー事業は、65年超の実績を有し、ブチルゴムの技術、サービスおよび製品において世界をリードしています。エクソンモービル・ケミカルのブチルポリマーの詳細につきましては、こちらのサイトをご覧ください。 www.butylrubber.com

以上